

□最近の活動状況

【新年懇談会】

— 1月24日(水)ザ・セレクトン福島 —
 講師 東京電力ホールディングス株式会社
 福島復興本社代表 大倉 誠 氏
 テーマ 福島復興への責任を果たすための
 取り組みについて

参加会員数 59名

福島復興本社は復興に関する業務全般を統括しています。賠償はもちろんですが、その他に復興推進活動を行っています。具体的には、人的貢献活動として除草作業、避難者さま住宅の清掃や片づけ、地域イベントのお手伝いなどがあります。また、放射線を専門に扱う部署があり、そこでは放射線の計測やさまざまな技術開発、研究を行っています。その技術を生かし、国・自治体と共に除染活動も行っています。

風評被害払拭に向けた取り組みについて紹介します。福島県産品や観光の風評被害払拭に向けた活動の輪を広げ定着を図る目的で「ふくしま応援企業ネットワーク」を2014年11月に設立しております。設立当初は会員企業数11社でしたが、今年1月末には101社となる見込みです。活動内容としては、社員食堂等での福島県産材の活用や、企業マルシェと呼ばれる販売会で福島県産品コーナーを設けていただいています。

雇用創出への取り組みについて説明します。三菱グループさまを中心とした多くの企業さまの応援のもと、当社の広野火力発電所と常磐共同火力(株)勿来発電所に世界最新鋭の石炭火力発電所を建設します。運用開始時期は勿来が2020年9月、広野が翌年9月を予定しています。これにより、二酸化炭素の排出量を約15%削減し、最大2千人の雇用創出と1基につき約800億円の経済波及効果があると見込んでいます。

福島県が進めている再生可能エネルギー導入促進にも協力しています。当社の新福島変電所を改修し再生可能エネルギーの接続を可能にしました。また、福島県沿岸部や阿武隈山地における再生可能エネルギー導入拡大に向けて送電網整備も進めています。

まちづくりへの貢献としては、大熊町に給食センターを作りました。ここで学校給食方式で、福島第一原子



講師 大倉 誠氏

力発電所へ運ぶことで作業員に温かい食事を提供できるようになりました。また大熊町復興拠点の周辺に当社の单身寮を750戸建設しました。そこで実際に生活をする中で、大熊町が安全で安心して住める所だということを証明していきます。

営農再開等への貢献としては、川内村におけるワイン醸造プロジェクトの活動に参加しています。海外には原子力でダメージを受けた地域がワインで再生したという事例もあります。当社の社員がワイン造りは福島地域の貢献につながると考え仕事の傍ら個人資格で会社法人を立ち上げました。浜通りでブドウ栽培ができる土地を探していたとき、川内村の商工会や役場の方が是非トライしてみたいということで話が進みました。今後は醸造所を建設し2020年の出荷に向け生産体制を整えて行く予定です。

元に復すということだけではなく、新しい住民の呼び込みや産業を興すことも含めてお手伝いをして参ります。本日、紹介しました活動をこれからも継続していき、福島復興への責任を果たして参りたいと考えております。

(文責：事務局)



懇親会風景

【第18回朝食懇談会】

— 2月1日(木)ホテル辰巳屋 —

講 師 株式会社会津ラボ

代表取締役社長 久田 雅之 氏

テーマ 会津大学発ベンチャー企業、

会津ラボの取り組み紹介

～会津から世界へ～

参加会員数 43名

私が物心ついた頃からパソコンは身近にありました。最初はゲームから入っていったコンピュータの世界でしたが、いろいろなプログラムを作り試行錯誤を繰り返す中で、自然に技術が磨かれ知識が身につきました。コンピュータの勉強ができる大学を探していたとき「福島県立会津大学コンピュータ理工学部」が目にとまり入学を決意しました。

会津大学は1993年に開学した日本初コンピュータ専門大学です。当時、特に目立っていた点は、約7割が外国人の先生で授業は全て英語という国際的な教育環境です。また、1科目でも落としたり留年という必修科目制も特徴的でした。これは、初代学長である國井利泰先生の「学問はピラミッド構造で、学術的な知識の積み上げは三角形の底辺の基礎を理解しなければ次の段階には進めない」というお考えによるものです。

私はこの会津大学の1期生として入学し、國井先生始め多くの方々のご指導により第1号の博士号を取得できました。その後、東京のベンチャー企業に1年ほど勤務し、金沢工業大学で教員として3年勤めた後、会津に戻り(株)会津ラボを創りました。当初、全世界の誰にも負けないようなセキュリティのサービスツールを作ろうとしました。しかし、投資家からの資金調達が思うように進まず、見かねた周囲の人から事業を断念するよう勧められましたが、これが私の反骨精神を刺激し諦めずに続けることができました。転機となったのは、スマートフォンです。国内で販売される前からスマホ用アプリ開発にいち早く着手していたことが功を奏し、全国から開発依頼が集まり事業が回るようになりました。

今、当社が精力的に取り組んでいるのはエネルギー分野です。エネルギー管理を通じて、便利で快適な生活や省エネをサポートしていく「エネルギーマネジメントシステム」の開発を進めていま



右 講師 久田雅之氏

下 会場風景



す。その一環として開発した「スマートプラグ」を利用し高齢者の見守りサービスの実用化を目指した実証実験を2月から浪江町で開始します。浪江町は2017年4月に帰還が始まり、500世帯ほど戻っていますが多くは高齢世帯です。居住者が少なく隣人同士の声かけが難しい生活環境にあります。このプラグはコンセントに接続することで、家電製品の電力使用を把握し、遠くに住む家族はスマートフォンで状況を確認することができます。エネルギーの動きは人の動きであり、人の動きを見ることができれば、見守りにつなぐと考えるこの仕組みを開発しました。

当社は、会津大学発ベンチャー企業として会津大学建学の理念を掲げ、これからも地域のニーズに耳を傾け、復興のため、人のためになる高度なIT技術を世に送り出していきたいと思っております。しかし、実証実験など我々だけではできない難しいこともあります。今日、皆様方と繋がることができ非常に嬉しく思います。これを機に、福島県の今後の発展のために連携を深めさせていただきたいと思っております。

(文責：事務局)

**【経済同友会震災復興プロジェクト・チーム
ミニシンポジウム】**

— 3月10日(土)仙台市 ウェスティンホテル仙台 —

仙台市にて(公社)経済同友会震災復興プロジェクト・チームのシンポジウムが開催され約60名が参加しました。

東日本大震災から7年を迎える被災地の復興の現状と課題について意見交換が行われました。第3部で高橋代表幹事がパネリストとして登壇し、これまでの福島県に対する支援に感謝し、県内の経済産業について説明しました。

その後の夕食懇談会にて阿部代表幹事が中締めを行いました。



高橋代表幹事(中央)

□今後の予定

【第31回全国経済同友会セミナー】

日 時：平成30年4月19日(木)～20日(金)

会 場：ホテル東日本宇都宮

テーマ：次世代につなげる輝く日本を目指して～明るく希望に満ちた社会の構築～

【通常総会】(詳細決まり次第ご案内申し上げます)

日 時：平成30年6月28日(木)

15:00～ 総 会

15:45～ 講演会

17:00～ 懇親会

会 場：ホテル辰巳屋

□事務局だより

○平成30年1月から3月に入会・変更のありました会員を紹介いたします。(敬称略)

会員交代	 平成30年2月交代 守山 幸志 (株)福島丸公 取締役社長
------	---

- 退会
 半澤 隆
 (株)インフォメーション・ネットワーク福島
 代表取締役社長
 引続き会員増強にご協力をお願い申し上げます。
 (平成30年3月20日現在 会員数96名)

福島経済同友会のホームページにて、活動状況や今後の予定などいち早く掲載しておりますので、ぜひご覧ください。
 URL : <http://www.fukushima-doyukai.jp/>

編集日誌

- ◇“Passion. Connected.”(ひとつになった情熱)をスローガンに開かれた平昌オリンピック・パラリンピックが閉幕。開催期間中はテレビの前で手に汗握りながら声援を送っていました。日本選手団はオリンピック・パラリンピックともに前回大会を上回るメダルを獲得し、素晴らしいパフォーマンスや記録に感動の連続でした。
- ◇各競技において、監督・コーチやサポートする人など多くの方の支えの下、チームワークの良さが随所に現れており、その重要性を改めて考えさせられました。
- ◇新年度が始まりました。スポーツに限らず仕事をする上でも、目標達成に向けて一人一人が力を発揮し、メンバーを支え合い、最良の結果を残せるようチームワークを大切にしたいですね。(今野)

□会員企業紹介 【第18回 株式会社アポロガス】

今回は株式会社アポロガスの篠木社長にインタビューしました。昨年3月、従業員や顧客、地域社会を大切にしている会社をたたえる「第7回 日本でいちばん大切にしたい会社大賞」で審査委員会特別賞を受賞。2018年3月に出版されたばかりの最新刊「日本でいちばん大切にしたい会社6」は、アポロガスを含む全国6社を収録、シリーズ累計70万部を突破するベストセラーとなっています。特色のある新入社員研修についてなど様々なお話を伺うことができました。



○時代が変わればエネルギーも変わる

当社では再生可能エネルギーに力を入れており、4月から、子会社である「ふくしま hidro サプライ (株)」が福島と郡山で移動式水素ステーションの稼働を開始します。このステーションは、郡山市にある産業技術総合研究所の福島再生可能エネルギー研究所にて太陽光・風力発電で作られた電気を使い、水を電気分解して得られる水素を使用します。商用では世界初となる水素ステーションです。これにより水素供給体制が整いましたので、燃料電池車「MIRAI」を県内で初めて導入しました。今後は「MIRAI」を小中学校などの再生可能エネルギー教育のイベントで利用し、子供たちに関心を持ってもらい水素を使った環境に優しい車社会の普及につながればと思っています。

そして2020年、東京オリンピックで福島県産の水素で動くバスの実現を「ふくしま hidro サプライ (株)」は相良元章社長 ((株) アポロガス共同経営者) が先頭に立って目指していきます。



移動式水素ステーション

○まんじゅう論文

「日本のいい会社 (ミネルヴァ書房)」という本に、県内から郡山市の老舗和菓子店 (株) 柏屋さんと当社が選ばれたことがきっかけで、新入社員による薄皮饅頭の新たな食べ方を見つける2社のコラボ企画「CHALLENGE MANJU PROJECT」が生まれました。生ハム饅頭、饅頭カプレーゼ、金銀饅頭など斬新な作品の中から最優秀作品に選ばれたのは「饅頭スライダー (ミニハンバーガー)」です。饅頭に何かを挟むことで見た目の楽しさが生まれ「インスタ



最優秀作品
「饅頭スライダー」

映え」も期待でき、多くの人がSNSで発信したら面白いと提案。世界中に日本の饅頭文化、そして福島の良さを発信できる、若者ならではの自由な発想から生まれた作品に感動しました。

新入社員研修として50日間150種類の研修を実施し100本の論文を提出してもらいます。ユニークな研修を通して、その目的は何か、達成するために何を実行すべきかを自ら考え行動できる人に育って欲しいと考えています。

ニューヨーク・タイムズで「今年、小学校に入学した子どもが16年後大学を卒業して就職する頃には約65%の人が今の地球上に存在しない職業に就く」という記事を読みました。アメリカの話で未来の話ですから必ずそうなるとは限りませんが、当社がメインで行っているガス事業は人口減少も含め将来厳しくなるだろうとは感じています。今、地球上に存在しない事業にチャレンジしたいと考えたときに、当社が出来る唯一の戦略は「いい人材を採用して育てていくこと」であると思いい人材教育に最も力を注いでいます。

○元気エネルギー供給事業

少子高齢化、人口減少社会により若い人が地域から減っているため、仕事で各家庭を訪問した際に重いものを動かしたり、高い所のものを取ったりといったお手伝いをしています。こうした取り組みから、若手社員で結成された「優しい外孫ブラザーズ」が生まれ、地域のために活動をしています。当社の入社条件の一つに「人の生きる目的は周りの人を幸せにするという価値観に共感できる人」という項目があり、社員全員の思いは共通しています。若い人が支える地域社会は幸せな社会になると考えています。これからも地域を支える社員を育て、社会に貢献できる企業として幅広い発展を目指し挑戦し続けます。

住 所 〒960-0201
福島市飯坂町字八景6-17
創 立 昭和46年7月
従業員数 70名(グループ全体)
T E L 024-542-1122
U R L <http://www.apollogas.co.jp/>